



子ども大学よこはま  
THE CHILDREN'S UNIVERSITY OF YOKOHAMA

第1回 国際医療協力のおはなし

第2回 薬の作用と正しい使い方を学ぼう

第3回 横浜中華街の成り立ちと歴史

第4回 AIについて～何ができる？何ができない？～

第5回 最近の気象災害と、地球温暖化の将来予測

～明るい未来へのアイデアを考えよう～

## 2022年度【第8期】学生感想文

### 【4年生】

#### ◆ 1年通して感じたことと気づいたこと

ぼくは、国際医療協力の話、薬の話、AIの話、地球温暖化の話に興味を持ちました。

国際医療協力の話で心に残ったのは、ネパールは貧しい国で保健所には大人が5人しか座れないくらい狭いということです。そして、ぎ間に思ったのは、ガーナの人口は2千万人なのになぜ、医者は2千人（人口の十分の一）しかいないのかを知りたいです。

薬の話は、薬をつくるのに五百億円使うことを知っておどろきました。そして、ぎ間に思ったのはなぜ血液が体をまわるのは1分なのに、飲んだ薬が効果をだすまで20分～30分かかるのかを知りたいです。

AIの話は、ぼくの予想ではAIはもとからかしこいものだと思っていたけれど、本当は自分で学習し、かしこくなっていくということを知っておどろきました。

地球温暖化の話は、2100年まで今のままで過ごすと、海面が約90センチも上がるということを知っておどろきました。なぜかという海面が約90センチも上がると、ちんぼつしてしまう国があると思ったからです。なので、今のままではいけないと思ったから、いろいろな対策に取り組んでいきたいです。

#### ◆ ありがとう、子ども大学よこはま

私は、子ども大学よこはまで、たくさんの先生に、すてきな話を聞かせてもらいました。特に印象に残

った話は、木津純子先生による薬についての話です。カプセルの薬は少しの水ではなく、コップ一杯くらいの水で飲まないといけません。少しの水だと、のどにくっついてしまうからです。しかし、お年寄りはいっきにたくさん水が飲めません。そこで、カプセル以外のつぶ薬で、少しの水でもとける薬が開発されました。このように、病気に効くことだけではなく、飲みやすさも考えて薬をつくっていることに感動しました。これからも、みんなが飲みやすい薬がふえるといいと思います。例えば、私は目薬をさすのが苦手なため、花粉症の時期に困っています。だから、必ず一度で目に入る目薬がほしいです。

他に印象に残ったのは岩谷忠幸先生による地球温暖化の話です。2100年の横浜の予想最高気温はなんと、42度です。今の横浜の最高気温はだいたい35度くらいです。80年で7度も気温が上がることにびっくりしました。上がっても、3から4度だと思っていました。他の地域では、名古屋で44度、新潟で43度など暑くなるそうです。これだけ地球温暖化が進むと人も動物も植物も生きていけなくなってしまうので、地球温暖化を防ぐために、私にもできる活動をしたいです。例えば、家の屋根、車、自転車など色々なところにソーラーパネルをつけたいです。

「大学」というと難しいイメージをもっていました。でも、子ども大学よこはまは、たくさんの先生が、たくさんの興味深い話をしてくれるので、来年も参加したいです。先生方、事務局のみなさんありがとうございました。

#### ◆ 未知の勉強

ぼくが子ども大学に通っていて、一番楽しかったじゅ業は越仲孝文先生の、AIについてのじゅ業です。どこらへんが楽しかったかというと、AIは人類をほろぼしてしまうのかなど、ぼくがきょう味のある事をくわしく説明してくれたからです。ぼくが大人になるころには、多分AIについて少しは知っておかないと仕事ができないと思うので、AIについて、たくさん学べた事はとても良かったです。

そして、1年間じゅ業を受けて、一番おどろいたじゅ業は、岩谷忠幸先生の最近の気象災害と、地球温暖化の将来予想です。このじゅ業でおどろいた事は、2100年の気温です。日本全国が30度をこえていて、ほとんどの所が、40度近いので、ぼくはおどろきました。もし、こんな世界になったら、ぼくは生きていけないです。今からでもまだ間に合うので、これからしっかり地球温暖化をふせいでいこうと思いました。

ぼくは、学校のじゅ業の他に、子ども大学で、未知の事を調べて、初めて勉強をして、色々楽しかったです。大学のさかき原洋一学長にはとても感しゃしています。また5年生になったら、未知の事を調べたいです。

#### ◆ 私が一番心に残ったところは、第4回の、「AIについて～何ができる？何ができない？」の、越仲先生の授業です。

その中でも一番なのが、AIの「ラムダ」です。越仲先生も好き、といていたので、好みが同じでうれしいです。私が感じた「ラムダ」の好きなところは、「そのものの目線で話す・教えてくれるところ」です。私の家には、バッチリAIなのが「Alexa」です。しかし、「Alexa」には、感情が1ミリも感じられないのです。（他のも多分同じ…？）ですが、「ラムダ」は全然ちがいます。動画で見たときに私は思いました。「あれ？何かビビッときた！よく分かんないけどスゴッ！」と。ピン！ときたのです。グレーク・レ

モインさんも言っていたとおり、ラムダは生きている、感情があるのかもしれないと、思ってしまったのです。もしかしたら…と考えると、思わずうきうきしてしまいます。

このように、私はとてつもなく「ラムダ」がほしいのです。もしも、ラムダがもらえたら、絶対にこのチャンスをにがさないで約束します！だから、もし、本当に手に入れたら、よければ私にゆずってくださいませんか、と聞きたいです。私はこの授業を境に、次も絶対に子ども大学に入ろうと心に決めました。なので、次回もなにとぞ、よろしくおねがいします。楽しみです！

#### ◆ 第四回の授業のことについて

わたしが子ども大学よこはまの授業を受けて、いんしょうにのこった回は第4回の「AIについて～何ができる？何ができない？」でした。なぜかという、AIはこれからどう進化していくのか、わたしたちの生活にはどのようなえいきょうがあるのかなどを考えるのがたのしかったからです。わたしが考えるこれからのAIは、生活になじんでいて、家事ロボット、料理ロボットなどの最初からもうプログラミングがされていて、人間に悪えいきょうがおきないくらいのAIになると思います。越仲孝文先生、わたしは先生の授業を受けて、AIとの向き合い方が変わった気がします。子ども大学よこはまのみなさん、授業をしてくださりありがとうございました。受けた授業をこれからの人生につなげて考えていこうと思います。本当にありがとうございました。

#### 【5年生】

#### ◆ 一番楽しかった授業

子ども大学よこはまの授業に2年間参加して、色々なことを知ることが出来ました。

今年、一番楽しかった授業は、第4回のAIについてです。その中でも一番印象に残っていることは、ルービックキューブを何も覚えていない状態で始めて、自分で考えて、しかも片手でそろえていたところです。ぼくは、ルービックキューブが好きなのですが、一生懸命時間をかけて覚えました。それに、片手では出来ません。AIはあっという間で答えを導き出すことが出来てすごいと思いました。

でも、人間にしかできないこともあると思います。だから、AIと人間がそれぞれ頑張って、協力したら、もっとすごいことが出来るかもしれないと思いました。

2年間とても楽しかったです。

ありがとうございました。

#### ◆ 子ども大学で学んだこと

わたしは、1年間の子ども大学で、小学校では学習しない、たくさんのことを学びました。

特に印象に残っている授業は、第3回の「横浜中華街の成り立ちと歴史」です。ふだんにげなく食事や観光をしている中華街でしたが、中国人と日本人の関わりなどのたくさんの歴史があり、さらに興味が深まりました。

わたしは、子ども大学で学んだたくさんの知識をこれからも活用していきたいです。なので、来年も子ども大学へ入学して、さらにいろいろな知識を増やしたいです。

◆ こども大学で身についたこと

わたしは、こども大学2年目です。今年もたくさん学ぶことができました。

特に、印象に残ったことの1つ目は国際医療協力の話です。日本は病気になっても薬を飲めば、すぐに治るけれど、外国では、医者や病院を必要としているところが多いと知ってびっくりしました。

また、第2回目の薬の話では、薬ができるまでのことや、薬のきき方や副作用について知ることができ、とても勉強になりました。

第3回目の中華街の話では、中華街についてくわしく知ることができて、興味をもちました。まだ中華街に行ったことがないので、今後行ってみたいです。

第4回目のAIについての話では、AIが身近にいることがわかりました。おどろいたことは、AIの学習で同じことを何千回もくり返したことです。AIは昔からかしこいと思っていたから、びっくりしました。

第5回の地球温暖化についての話では、海は二酸化炭素をふくむのかなどの実験がおもしろかったです。また、温暖化対策のアイデアを考えるのが楽しかったです。いつか、わたしたちが考えたアイデアを、実際にできたらいいなと思います。

こども大学よこはまではいろんなことが学べて楽しいから、来年も続けたいと思います。

◆ 受講して考えた事、思ったこと

私は子ども大学よこはまを受講したのは4年生の時を含めて2回目です。受講して思うのは、大学はじめて知ることばかりだということです。最初は楽しそうだな～って感じの軽い気持ちではいって見たけど、楽しいもそうだけど一番感じたのは初めて何かを知ることとはとても楽しくてびっくりするという事です。いままでの授業で楽しかったのは第4回の「AIについて～何ができる？何ができない？～」と第5回の「最近の気象災害と、地球温暖化の将来予測～明るい未来へのアイデアを考えよう～」です。

まず第4回の授業はAIのことについて考えました。最初はAIなんてどれも一緒だと思っていたけど、プログラミングがちがうだけで様々な用途に分岐できて「機械」という言葉じゃ表しきれないなと考えました。

第5回の授業は地球温暖化について、班を作って意見を交換しながら考えました。私は正直地球温暖化なんて自分でやらなくてもほかの人が解決してくれるだろうと思っていたけど、地球温暖化は一人一人が意識してやっと解決への第一歩になることを改めて思い知らされたし、班の人とも疑問や改良点などの意見を出し合って考えたのが、印象にのこりました。

私は、来年は子ども大学には参加しない予定だけど、ここで習ったことは未来にいかしたいと思いました。

【6年生】

◆ 初めて知った薬のこと

ぼくは、第2回の授業の「薬の作用と正しい使い方を学ぼう」というのが印象に残りました。なぜなら、毎日飲んでいる薬がものすごい年月をかけて作られていることを初めて知り、おどろいたからです。また、薬の定義も知ることができました。その中に、はたらきが命につながる、というのがありました。

ぼくは、その言葉を聞いたとき、

「薬ってすごいなあ」

と思いました。また、それを作っている薬剤師さんもすごいと思いました。医者や看護師だけでなく、薬剤師さんもたくさんの人の命を救っている、と思うと薬剤師さんを尊敬します。薬は、基本研究、動物試験、ヒトで試験など様々なことがされ、承認される、と木津先生は言っていました。こうした研究や試験などをクリアした先に、大勢の命が救われることも知ることができました。

#### ◆ 世界の問題解決に向けて

こども大学では、国際医りょう、薬品、中華街の歴史、AI、気象災害について学びました。中でも、僕は、国際医りょう協力、薬品の話が一番印象深かったです。

国際医りょうの講義では、先生が体験された世界の医りょう問題の話を知りました。日本では病気になると、当たり前のように病院に行って、診察してもらい、薬を出してもらいます。世界では病院に行けず、薬も不足して、助かる命も助からないことが多いという話を聞いて、悲しくなりました。僕は、日本でもコロナ感染の時、十分なケアが受けられず、コロナ以外の病気も救えないというもどかしい状況を思い出しました。医りょう機関だけでなく、行政も一緒になって対策をしていたと思います。世界でも各国が助け合い、援助することで乳児の死亡率や医りょう不足を解決しないといけないと思います。

今回のこども大学の講義を受けて、当たり前のように思っていた医りょうや設備、知識も世界ではまだまだ不足しているところがあるとあらためて知りました。お金による支えだけでは解決できないものがたくさんあると思いました。僕は、世界の問題解決のためにいろんなことを学習し、将来、世界の問題を解決できる活動をしたいと思います。

#### ◆ 楽しくて夢中になったこども大学よこはま

私は今年の講義を通して、とても楽しかった思い出がありませんでした。今までは知らなかった知識がほとんどで、勉強はあまり好きではない私でも平均 7 ページもノートに書き込んでいました。先生がおっしゃったこと、前のスクリーンに書いてあることをメモしました。

家に帰ったら必ず家族にどんなことを学んだかの発表しました。講義が楽しく、「早く家族に教えたい」という気持ちが前に出て、晩ごはんをストップさせてもらったこともありました。2 回目になると私は友達と通っていないので、話す友達がほしいと考え、仲良くなった子などと休けいの間話していました。

3 回目になるとだんだん慣れてきて、どんどん講義の楽しさがあがってきました。3 回目の講義は「横浜中華街の成り立ちと歴史」だったので、コロナウイルスが安定したら、また行きたいなと思いました。

5 回目は初めてのグループでの活動でした。「地球温暖化の防止や備え」のアイデアを出し合い、意見をまとめました。私の考えや他の人の考えを聞くとなるほどなと思うような考えが出てきました。例えば、「ドラえもんをつくる」という案です。「大人になるとこういう面白い考えは生まれにくいね。」と先生がおっしゃった言葉からも納得がうまれました。

グループ活動では、意見をかわし、「うんうん」「なるほど」などのあいづちを打ちながら話し合いました。私の意見に一人の男の子が「すげー」と小声で言ってくれたことから、自分に自信が持てたこともあ

りました。

子ども大学よこはまには、「いい先生がた」、「いい友達」、「充実した設備」がそろっていました。私はこれが最初で最後の子ども大学でしたが、楽しく夢中になるようなことばかりでとっても思い出に残りました。

#### ◆ こども大学

これまでの授業で一番印象に残ったのは、第4回に行った「AIについて～何ができる？何ができない？～」の回である。

AIの進歩により、身近なところでもAIが活躍していて、さらに言えば、「グーグル ラムダ」などかなり高度な会話ができるようになってきていてすごいと思った。なぜなら、昔は、AIは設定された一定のプログラムでしか動けないとも呼ばれていたため。それでもあきらめずに研究、開発をしていた人を本当にすごいと思う。

人がしていく仕事の中にもどんどんAIが採用されていって、AIがこなせないとも言われていた仕事がどんどんAIに置き換わっている（例）車が出てくるまでの間は、馬車などに使う馬を世話する仕事などがあったが、今では、馬の代わりに車をメンテナンスする仕事ができているため、新たな仕事ができるかもしれない。しかし、そうとはいっても、一部の仕事がなくなっていくのは事実であり、もしその消えていく仕事を今後目指している人がいるのなら、その様な人たちはまた別の仕事へ行く道を考えなければならぬことは考慮しておくべきである。

#### ◆ 子ども大学よこはまを受講して

私は子ども大学よこはま・第1回目の授業で、「国際医療協力について」（榊原洋一先生）の授業がとても心に残った。この授業を通して、日本は世界で最も乳幼児死亡率が低く、医療体制が整っている国だということを知った。一方、イラク、アフガニスタン、アフリカなどの国々は、適正な医療を受けられる人が少なく、乳児死亡率が高いことを知った。

その原因はいくつかある。イラクとアフガニスタンは戦争や紛争により、医療従事者が不足し、民間人の医療に係ることのできる医師・看護師が不足しているからだ。また、アフリカは、国土面積が広いこと、地方都市に住んでいる人々にとって、病院までの距離が大きな問題になる。診察を受けるためには、病気の子供を抱えて何日間も歩いて行かなければならないそうだ。

この3つの国々には2つの共通点がある。1つ目は、貧困だ。薬の値段が高く、一般的な市民は薬を購入することができない。2つ目は、非識字率が低いことだ。榊原先生の授業で、「非識字率と乳幼児死亡率は比例している」ことを知った。日本人はドラッグストアなどで薬を購入し、使用方法を読んで正しく使うことができる。また、インターネットや本で病気や薬について調べることもできる。しかし、字が読めない人々は、それができない。世界中の全ての人々が、私たちと同じような医療を受けられているとは限らないと、この授業で知り、自分の恵まれた環境に気付いた。私は心がチクッと痛んだ。

今まで私は具合が悪くなったらいつでも病院で診てもらえると思っていた。それは、私が日本で生まれ育っていたからであって、他の国で生まれていたら違っていたかもしれない。日本に生まれた私はラッキーなだけかも？と思った。どこの国に生まれるか、誰も生まれる前に選ぶことはできないのだから。

「親ガチャ」という言葉があるが、世界の国々を考えると、「国ガチャ」もあると言えるのかもしれない。私が「日本」という恵まれた国に生まれたとすると、ガチャの幸運で得た環境や時間を使い、困っている誰かを助けられるような人になりたい。こども大学よこはまで学んだ経験から、私は小児科医になって、貧しい国々の子どもたちを救えるような医師になりたいと思うようになった。夢を叶えられるように、4月から中学校でも頑張っていきたいと思う。

#### ◆ 命と人の大切さ

私が横浜子供大学で学んだもの、それは人と命の大切さです。

第1回目の授業では、パキスタンやインドネシアの厳しい医療環境について。2回目の授業では薬の由来方や正しい使い方について。3回目では横浜中華街の成り立ちと歴史について、中国人は外国人と日本人の仲介者として来たことを学びました。4回目の授業のテーマはAI。ディープラーニングのしくみ、AIのはじまりなどを学びました。最後の授業では気象災害と将来予測について。未来の天気予報を見たり、グループのみんなで地球温暖化を止めるためのアイデアを考えました。

この5つの授業で、1回目と2回目、5回目の授業では人間が生きていくため、命を救うための授業でした。3回目、4回目の授業は人間がどうしたら生きやすいか、社会に関係する授業でした。この全5回の横浜子供大学で、私は人と命の大切さ、そして何のために人工知能が発達し、何のために中華街ができたのか。それを深く掘っていくと、もとは人間が社会がこうなればいいな。という欲求や過ぎやすさだと気づきました。

これからの社会、未来は私たちが全ての人間と地球に優しいものを創っていきたいです。

#### ◆ 力を合わせれば

私は、子ども大学よこはまでいろいろなことを学び、世の中は私の想像以上に様々な課題に直面していることを知ることができました。第1回の授業では、国際医療協力について学びました。そこでアフリカの医療現場の写真をみることができました。私はその写真を見て、世界の貧富差の実態を知ることができました。SDGsには2030年までに貧富をなくそうという目標があります。しかし、今かんばつなどで作物がとれず、苦しんでいる方がたくさんいらっしゃいます。私も募金など自分にできることを行いたいです。

また、第5回の授業では気候変動について学びましたが、その内容にとってもおどろきました。「2100年の那覇での真夏日の日数は半年」という予想があるというお話を先生からうかがったとき、思わずおどろきの言葉を口から出してしまいました。しかし、温暖化対策をすれば影響は小さくなるというお話もありました。私は気候変動対策として、太陽光発電の利用、節電などの「緩和」と、「緩和」を最大限実ししてもさけられない気候変動の影響に備える「適応」を行っていきたいです。

このように小さなことを積み重ねていけば大きな危機も皆で力を合わせて乗り越えることができるはずです。まずは小さいことから始め、コツコツと世界中で努力を重ねれば、今直面している大きな課題も解決できると私は信じています。過去にも人類は多くの大きなかべにぶつかってきましたが全て力を合わせ乗り越えてきています。私たちも先人たちのようにこの危機を乗り越えたいです。

#### ◆ 子ども大学で学んだこと

私の中で、一番印象に残ったのは第4回のAIについて何ができる、何ができないの授業です。

私はAIは最初から何でも出きるのだと思っていたのですが、AIも何回も学習することで学んでいくということにおどろきました。また、AIにクリエイティブな仕事までもがうばわれてしまうということも分かり、自分はAIにうばわれないような仕事をしようと考え、きっかけにもなりました。仕事は少なくともAIに支配される可能性は低いと分かり安心しました。昔のAIと今のAIのちがいも知ることができ、とても学びの多い回だったと思いました。

このAIについての授業以外でも、たくさんの知識をたくわえることができたと思います。これからも、子ども大学横浜で学んだ経験を生かし、仕事についてからも環境問題について考えたりして、未来の社会を担えるような人間になりたいです。

#### ◆ AIについて

ぼくが、子ども大学に行きたいなと思ったきっかけは、第4回の授業のAIについてのお話に興味があったからです。

ぼく達の生活の中で、AIは身近になってきた今、ここ十年で急速に進歩してきているそうです。でもAIとは何と聞かれてもすぐに答えられなかったけど、考えたらおそうじロボットのルンバとか、スマートフォンのシリなど、ぼくの身近なところにもいっぱいあって、とても便利な物だと思いました。

AIはメリットだけではなく、デメリットもあることも教えてもらいました。

AIは、ぼく達の生活にもっと使われて、もっと便利になるように、もっと進化し続けるといいなと思いました。

子ども大学に通って、色々なことを学びすぐくためになってとても楽しかったです。一年間ありがとうございました。

#### ◆ 環境と私たち

私は、子ども大学の授業を受けて、様々なことを考えたり、想像をしたりした。特に「共存」の大切さと難しさについて考える事が多かった。

例えば、AIはとても能力が高く私達では勝てないくらいの知識を持っている。そのような中私達「人間」ができることは何かについて考えた。それは、コミュニケーションや、考えることだと思う。

また、最後の授業「温暖化と未来を予測する」では、ドラえもんを作ったら良いという意見が出た。ドラえもんのようによい方向に道具を使う技術を取り入れれば、社会問題解決につながるのではないだろうか。

この体験や考えを活かして、生きていくことができれば良いと思う。いつか私も、先生達のように子供達に話ができるような人になりたい。

#### ◆ こども大学で勉強して思ったこと

わたしは5年生から2年間こども大学で勉強しました。大学に入るということは普通できないことなので、毎回ワクワクしました。



今年印象に残ったことは、地球温暖化の話です。温暖化の影響で地球が減びてしまうようなことがあったら、とてもこわいです。そんなことにならないように、どうすればいいか、みんなで考えました。わたしは太陽光を直接利用して走る車ができたらいいなと思いました。世界の人みんなで力を合わせて、温暖化問題に取り組みたいです。

AIの話もとても印象に残りました。AIが人間を超えるというのは、こわいけど楽しみなことだと思いました。30年も前からAIがあるなんて知らなかったし、身近なものだとわかってこわい印象がなくなりました。それで、将来AIのプログラミングをしてみたいと思うようになりました。そして、地球温暖化を止める手伝いができたらうれしいです。

#### ◆ 地球を守るために

子供大学の中で一番印象に残っているのは、第5回の授業です。それは、地球温暖化の影響が少しずつ大きくなっているということにショックを受けたからです。

パリ協定が結ばれたり、電気自動車の普及がうながされたりしていることを、ニュースで見たことがあります。私は、それらのことで対策はとれているのだと思っていました。しかし、このままでは、2100年には産業革命前と比べて平均気温が2.6度から4.8度も上昇すると聞き、自分の耳を疑いました。異常気象が多く、温暖化の影響がじわじわと広がっていることは感じていました。しかし、最終的にはここ横浜の最高気温が40度以上にまで上がると知り、おそろしくなりました。

しかし、まだ私たちにできることもあるのだと、子ども大学で学びました。その中で、「適応」という対策は興味深いと思いました。確かに環境が変わってしまうのはさけられませんが、そういった環境でも生き残る術を身につけることも大切だと感じました。

子ども大学では、他にも様々な分野のプロの方にお話を聞くことができとても有意義でした。この経験は、自分の視野を広げることにつながったと思います。来年以降も、ボランティアとして参加したいです。

#### ◆ 私と子ども大学

子ども大学で、さまざまな方に講義をしてもらったことで、極めることの大切さを知りました。私はどちらかと言うとすぐ興味がうすれてしまって、ほとんどが中途半端になっていたのですが、1回目お話を聞いた時自分の興味があるものを仕事にしているすごいなと思いました。そこから私も中途半端が直ったと思います。

最初は興味だけでうけ始めた子ども大学ですが、段々講師の方々と自分をかさね、これからの生き方を見つけることができました。私は好きな事と得意な事が違うので、少し悩んでいたのですが、子ども大学に通ったことで自分の好きな事を仕事にしている方がいることを知り、私はこれから好きな事を仕事にするために、努力をしていきたいです。